

だいごう 第39号 平成25年12月1日 発行 (偶数月発行/年6回)

【発行者】 中国・四国中国帰国者支援・交流センター  
 社会福祉法人 広島県社会福祉協議会  
 〒732-0816 広島市南区比治山本町12-2  
 TEL 082-250-0210  
 FAX 082-254-2464  
 E-mail chushikoku-center@festa.ocn.ne.jp

# 七色花

## 広島県東部社会見学会

9月25日(水)広島県東部の帰国者を対象に社会見学会を開催しました。尾道市と三原市からの参加はありませんでしたが、福山市と東広島市の帰国者が参加しました。平和記念公園では、資料館を見学し、宮島では、厳島神社を参拝しました。若い世代の帰国者が多く、日本に来て間もない帰国者にとっては、二つの世界遺産を見学できたことで、日本社会について知る良い機会となったようです。

## 広島県防災相談説明会

9月29日(日)広島市と廿日市市の帰国者が廿日市市民活動グループ「ええじゃん」の主催する避難所体験会に参加しました。体験後は「災害の時、近所の公共施設に避難できるとは知らなかった」「最寄りの避難所と避難ルートを確認したい」「帰宅したら、非常持ち出し袋を用意したい」など、参加して良かったという話を多く聞くことができ、大変意義のある体験会となりました。

## 広島県企業見学・交流会

10月2日(水)広島県の帰国者を対象に企業見学・交流会を開催しました。岡山のキリンピアパークで工場内を見学しました。世界最高速レベルの缶詰生産ラインで、帰国者たちは係員の説明を真剣に聞いていました。「環境への配慮のため、ごみを再生して使っている」という説明もあり、企業の環境への取り組みにとっても感心しながら聞き入っていました。

## 島根県社会見学会

10月12日(土)島根県の帰国者を対象に社会見学会を開催しました。広島島の農園でりんご狩りをしたり、湧永庭園を散策したりしました。今回、今まで仕事が忙しくて参加できなかった益田市の帰国者が初めて参加しました。「他の地域の帰国者と久しぶりに中国語でたくさん話ができて、本当に嬉しかった。また次も参加させてほしい」と笑顔で話していました。



## 所沢定着促進センター出身者交流会

10月24日(木)・25日(金)中四国ブロックの帰国者を対象に所沢定着促進センター出身者交流会を開催しました。一泊二日で東京の社会見学を兼ねて、所沢センターを訪問しました。交流会では職員や現入所者と帰国後の生活で苦労したこと、中国の故郷の変化などを話して情報交換や交流をしました。翌日は、国会議事堂や皇居を見学し、日本社会への理解を深めました。テレビで見たままの建物や景色に歓声があがりました。

とうごう 投稿 高知市にお住まいの福沢俊傑さんからお手紙をいただきました。

### 小雨そぼ降る東京

平成25年10月24～25日の両日、中四国センター主催の定着促進センター出身者交流会が行われ、昨年の福岡センターに引き続き、今年も、小雨の中、埼玉の中国帰国者センターを訪ねました。緑の並木と白い二階建ての建物が互いに引き立てあい、落ち着いた雰囲気と清潔感が漂っていました。先生方の出迎えを受け、一緒に会場に入ると、簡単に準備された各テーブルに、新入所生一名と先生方が待ち受けていました。センターの先生の紹介を受け、修了生代表も挨拶の言葉を述べました。交流会は盛り上がり、話をするうちに我々は運命共同体だとの思いに至りました。終了後見学した宿泊棟は、居住環境が整い、健康測定器も新たに設置されていきました。研修棟も見せていただきました。長いはずの交流会はまたたく間に終わり、別れは名残り惜しいものでした。短いながらも、交流会は小雨とともに忘れられない記憶になりました。賑やかな大都会東京は、2020-新たな挑戦を迎えるでしょう。

## 中四国地域の活動報告

①第1回中国残留日本人の生きられた体験を聞く会  
 10月26日(土)第1回中国残留日本人の生きられた体験を聞く会が開催され、当センターの職員も出席しました。今回の会は広島大学院生の呼びかけで実行委員会が立ち上がり、各帰国者団体や当センターが協力して実現したものでした。60人を超える一般参加者も集まり、残留孤児の実情を広く伝える良い機会となりました。

②岡山県帰国者友の会主催「平成25年度自立促進研修」  
 11月3日(日)岡山県帰国者友の会主催「平成25年度自立促進研修」が開催され、当センターの職員が講師として招かれました。研修内容は生活習慣病の予防。参加者は真剣に講師の話に耳を傾け、研修後は「身近な内容だったので興味を持って聞くことができた」「勉強になった」など、積極的な意見が多数寄せられました。センターとしても帰国者に役立つ情報を伝えることができたと感じています。

## 12月・1月の予定

12月14日 相談説明会・健康増進交流会〔愛媛県〕 1月10日 相談説明会・健康増進交流会〔岡山県〕

### 投稿募集

あなたも「七色花」に記事を載せてみませんか？みなさんからの投稿を募集しています。内容は日々の生活の出来事や中国での思い出、わたしこんな特技がありま〜す、など何でもかまいません。原稿は400字程度で、持参、郵送、FAX、メールでお願いします。みなさまからの記事をお待ちしています。

### 編集後記

私が中国にいた頃はクリスマスのことを西洋の祭日だと思っていましたが、日本でも一大イベントだと知りました。特に子供たちはサンタさんからプレゼントをととても楽しみにしています。私の息子は保育園で毎年プレゼントをもらっていました。息子が小学一年生になった年のクリスマス、「何でうちにはサンタさんが来ないの？」と息子に聞かれ、私はどきっとしました。中国ではその習慣がなかったため、プレゼントを用意していなかったのです。「今年はサンタさんが忙しいからよ。でも来年は必ず来るからね」と答えました。それからは我が家にも毎年サンタさんが来てくれています。(松葉)

# 七色花

## 广岛县东部社会观摩会



9月25日(周三)以广岛县东部的归国者为对象举办了社会观摩会。福山和东广岛的归国者参加了这次活动,对尾道和三原的归国者没有报名参加这次活动,多少有些遗憾。在和平纪念公园和大家一起参观了资料馆。之后,又去参拜了宫岛的严岛神社。当天的参加者中刚刚来到日本的年轻人较多,通过对两所世界遗产的参观学习,增长了不少对日本社会的了解。

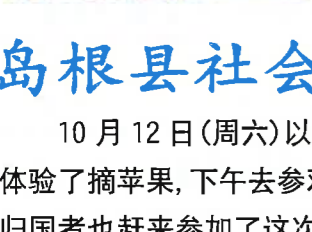
## 广岛县防灾咨询说明会

9月29日(周日)广岛市以及廿日市市的归国者一起参加了廿日市市民活动俱乐部「ええじゃん」所主办的避难所体验会。会后,大家感想纷纷,「以往不知道发生灾害时,可以到附近的公共设施避难」、「回家以后需要确认最近的避难所以及避难路径」、「应该预先准备紧急避难物资袋」,每个人都感到受益不浅,又和大家一起参加了一次非常有意义的体验活动。



## 广岛县企业观摩·交流会

10月2日(周三)以广岛县的归国者为对象举办了企业观摩·交流会。这次参观学习的是位于冈山的麒麟啤酒工厂。厂内工作人员的解说大家都听得非常认真,特别是介绍到世界尖端高速封罐机生产流水线时,几乎令人目不暇接。之后,听到工作人员介绍「为了保护环境,厂内所有的废物都进行回收再利用,不生产垃圾」后,大家对企业的超高环保意识感叹不已。



## 岛根县社会观摩会

10月12日(周六)以岛根县的归国者为对象举办了社会观摩会。这一天,上午和大家体验了摘苹果,下午去参观了涌永庭园。以前由于工作繁忙,没能参加中心活动的益田市归国者也赶来参加了这次活动,会后笑着说道「好久都没有机会说中国话了,这次能和这么多归国者见面,真是令人感到开心。今后也还想继续参加」。



## 所泽定着促进中心结业者交流会



10月24日(周四)·25日(周五)以中四国地区的归国者为对象举办了所泽定着促进中心结业者交流会。包括两天一宿的社会观摩活动在内,首先和大家一起到访了所泽中心。在交流会上,大家和老师以及刚来日本的新学员,就回到日本后所经历的困难以及中国老家所发生的巨变等内容为话题进行了信息交换和交流。第2天,带着大家走访了国会议事堂和皇宫,以加深对日本社会的理解。亲眼看到了以往通过银屏显示的景色不住引起大家的阵阵欢声。

## 投稿

下面这份投稿来自住在高知的归国者福泽俊杰先生。

### 细雨蒙蒙的东京

平成 25 年 10 月 24 日~25 日两天,广岛中心继福冈中心交流之后,又一次组织中四国地区的归国者,在细雨蒙蒙中,来到所泽归国者中心。在树荫掩映中,呈现一座二楼白墙小楼,显得安静、整洁。中心老师出楼迎接,同入会场,会场布置的简朴祥和,每桌有一名新入所的归国者及老师。当中心的老师作了简单的介绍后,由所泽中心结业归国者代表发了言。交流会的气氛十分热烈,似曾相识,又同命相连。之后,参观了生活栋,那里住居条件完备,还新增设了健康保健器具。最后还参观了研修栋。几小时的交流,转瞬既失,依依不舍的分手。短暂的交流,在细雨蒙蒙中留下难忘的记忆。繁华的都市东京,将迎接新的挑战—2020。



介绍后,由所泽中心结业归国者代表发了言。交流会的气氛十分热烈,似曾相识,又同命相连。之后,参观了生活栋,那里住居条件完备,还新增设了健康保健器具。最后还参观了研修栋。几小时的交流,转瞬既失,依依不舍的分手。短暂的交流,在细雨蒙蒙中留下难忘的记忆。繁华的都市东京,将迎接新的挑战—2020。



## 中四国地区活动汇报



### ①第1回 中国残留日本人回忆录座谈会

10月26日(周六)本中心的工作人员赶去参加了第1回中国残留日本人回忆录座谈会,这次座谈会是由广岛大学的研究生发起,并通过各归国者团体和中心的协助,成立了实行委员会,成功的举办了这次会议。当天,普通参加者超过60人,借此机会让社会更进一步了解了残留遗孤的实际情况。



### ②冈山县归国者朋友会主办「平成25年度促进自立研修会」



11月3日(周日)本中心的工作人员做为讲师,赶去参加了由冈山县归国者朋友会举办的「平成25年度促进自立研修会」。研修内容为预防生活习惯病,与会者们对讲师介绍的内容听得非常专注。会后,不少归国者赶来致谢,并提到「因为内容与自己切身相关,所以非常感兴趣」、「通过研修会学到不少知识」。能为大家提供有益的情报,中心也算尽了一份绵薄之力。



## 12月·1月预定



12月14日 咨询说明会·促进健康交流会〔爱媛县〕 1月10日 咨询说明会·促进健康交流会〔冈山县〕

### 征集投稿

您不希望把自己的文章登载在「七色花」上吗?在此,向大家征集稿件,内容不限,可以是日常生活琐事,也可以是追忆往昔,或者是介绍专项所长。原稿字数限400字以内,投稿可直接送到中心,邮寄、传真亦可。

期盼大家积极踊跃的投稿!

### 编辑后记

在中国时,以为圣诞节是西方的节日,来到日本后,才知道这个节日对日本人来说也非常的重要。特别是小孩子们因圣诞节这天能收到圣诞老人的礼物,所以对这一天迫不及待。我家小孩在上小学之前,每年在托儿所都会收到圣诞节礼物。到了小学一年级时,圣诞节那天,孩子回家后,一脸不高兴的样子对我说:「为什么圣诞老人不来我家送礼物?」我听了之后,特别后悔。因为自己没有这个习惯,所以没给孩子准备礼物。我赶紧回答「因为圣诞老人太忙了,明年一定会来的」。从此以后,每年过圣诞节时,孩子都会收到一份精致的圣诞礼物。(松叶)